

京浜急行バスの上限運賃変更認可申請について

京急グループの京浜急行バス株式会社（本社：横浜市西区，社長：野村 正人，以下京急バス）は、2023年5月23日（火），国土交通省関東運輸局長宛に一般乗合旅客自動車運送事業の上限運賃変更認可申請を行いました。

日頃より，ご利用いただいておりますお客様におかれましては，何卒事情をご賢察のうえ，ご理解賜りますようお願い申し上げます。なお，申請理由および申請概要は以下のとおりです。

1. 申請理由

京急バスは，1997年4月の神奈川県内（川崎市，横浜市内均一運賃適用地区を除く，以下 神奈川県）および同年12月の東京都内（以下 東京都）における前回運賃改定（消費税改定によるものを除く）から，約26年間，「安全・安心輸送」を最優先に掲げ，バス車両における安全機器の搭載や乗務員への安全教育，また路線網・輸送サービスの拡充および利用者利便の充実に努め，地域の交通手段の維持・確保に努めてまいりました。

この間，社会環境は，少子高齢化や人口減少などに加え，近年では，新型コロナウイルス感染症拡大によるテレワークの浸透やオンライン授業の実施など，新生活様式の定着による移動需要自体の低迷により，極めて厳しい事業環境となっております。

さらに，深刻なバス乗務員不足による要員確保に向けた人件費の増加や燃料費の価格高騰など各種輸送費用も増加傾向にあり，また，安全対策強化のための投資，低環境負荷車両の導入などの脱炭素化への取り組みの推進により，さらに厳しい経営状況が想定されます。

このような事業環境においても，今後も公共交通事業者の使命として，安全・快適なサービスの提供を維持していくため，運賃改定による収支改善が必要と判断し，今般，上限運賃変更認可申請いたしました。

2. 申請内容

- | | |
|----------------|----------------------|
| (1) 申請日 | 2023年5月23日（火） |
| (2) 実施予定日 | 2023年9月1日（金）（予定） |
| (3) 申請内容 | 全路線（横浜市内均一運賃適用区間を除く） |
| (4) 上限運賃の平均改定率 | 東京 13.74%，神奈川 18.60% |

(5) 現行・申請運賃比較表

		現行運賃		申請上限運賃 ^{※1}		実施予定運賃 ^{※2}	
		現金	I C	現金	I C	現金	I C
東京都	均一運賃	220 円	220 円	250 円	250 円	240 円	240 円
	同 定期券 (通勤1ヶ月)	9,900 円		11,250 円		10,800 円	
神奈川県	初乗り運賃	180 円	178 円	220 円	220 円	200 円	200 円
	同 定期券 (通勤1ヶ月)	8,010 円		9,900 円		9,000 円	

※1 申請上限運賃は、事業の経営に必要な原価に応じて算出される、バス事業者が収受してもよいとされる運賃の上限額です。

※2 実施運賃は、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する、実際にお客様から収受する運賃額です。

(6) 主要区間の運賃

区 間	片道運賃				定期券 (通勤1ヶ月)	
	現行運賃		実施予定運賃		現行	実施予定
	現金	I C	現金	I C		
金沢文庫駅～野村住宅センター	200 円	199 円	220 円	220 円	8,960 円	9,900 円
大船駅～梶原	240 円	231 円	260 円	260 円	10,400 円	11,700 円
逗子駅～横須賀市民病院	470 円	462 円	520 円	520 円	20,790 円	23,400 円
横須賀駅～池上中学	210 円	210 円	240 円	240 円	9,450 円	10,800 円
横須賀中央駅～一騎塚	350 円	347 円	400 円	400 円	15,620 円	18,000 円
三崎口駅～三崎東岡	260 円	252 円	280 円	280 円	11,340 円	12,600 円

3. 輸送人員および収支状況

		輸送人員		収支状況		
東京都	2021年度 実績年度		1,631 万人		△412 百万円	
	2023年度 平年度推計	改定前	1,841 万人		△557 百万円	
		改定後 ^{※3}	1,815 万人		△192 百万円	
神奈川県	2021年度 実績年度		4,302 万人		△1,408 百万円	
	2023年度 平年度推計	改定前	4,673 万人		△1,937 百万円	
		改定後 ^{※3}	4,542 万人		△693 百万円	

※3 2023年度運賃改定後の輸送人員、収支状況は申請上限運賃での推定値です。

4. これまでの経営合理化状況および今後の取り組み

京急バスでは、これまでも組織再編による事業運営の合理化、営業所集約による管理コストの削減や車両代替期間延長による投資・償却費の削減、業務の内製化などを通じた外注費の削減などに努めてまいりました。

また、沿線実態に応じた運行ダイヤの見直しや新路線の開設などの路線網の拡充による増収策、バスボディへのラッピングや広告付き上屋のバス停留所増設などの関連収入の確保に努めてまいりました。

今後も上記施策を柔軟かつ機動的に実施しつつ、コロナ禍による生活様式・社会環境の変化に対応した運行ダイヤの見直しを行い、路線網維持に努めるほか、DX（デジタルトランスフォーメーション）による全社的な事業変革により生産性を向上させる取り組みにより、さらなる経営改善を進めてまいります。

5. 安全対策への取り組み

京急バスでは、「安全・安心輸送」という経営理念のもと、交通事故の未然防止・再発防止のための教育およびデジタル技術を活用した安全機器への投資を推進し、安全性向上に努めております。

乗務員教育においては、業界に先駆けて危険な状況を仮想体験できる運転シミュレーターを2017年に導入、2018年には横須賀市内に研修・教育センターを開設し、専任の教官による乗務員教育カリキュラムなど人材育成と交通事故の未然防止・再発防止の教育の拡充に取り組んでおります。

また、ドライバー異常時対応システム（EDSS）バスの導入や新型ドライブレコーダーへの代替など最新技術を取り入れ、引き続き積極的に投資を進め、安全対策の向上に努めてまいります。

6. サービス向上の取り組み

京急バスでは、CS教育に基づくお客様の視点に立った接遇サービスの向上や割引率の高い70歳以上の方対象の高齢者定期券「ふれあいパス」の発売などを実施してまいりました。また、交通系ICカードの導入や金額式IC定期券、スマホ定期券の発売など、利便性向上に努めてまいりました。

運賃改定後においては、将来を担うお子さまや子育て世代の応援のため、お子さまが小児用ICカードをご利用の際の運賃を全区間一律100円にするとともに、通学定期券においても現在の支払額に対して大きな家計負担とならないように割引率の引き上げを実施いたします。また、現在は神奈川県内のみでのご利用となっている金額式IC定期券の利用エリアの東京都内への拡大など、沿線の多世代共生による持続的な発展を目指し、利用促進策を一層積極的に取り組んでまいります。

今後も、ノンステップバスの導入を中心にバリアフリー化の推進、デジタルサイネージにバス運行時刻表を表示するスマートバス停やバス停留所上屋の整備といったバス待ち環境整備、ICT・IoT技術を活用した取り組み、他交通モードや近隣商業施設との連携による新たなサービス付加の検討など、お客様から信頼されるサービ

ス提供を目指してまいります。

7. 今後の社会的課題への対応

京急バスでは、社会的課題でもある脱炭素社会の実現に向けて、環境に配慮した燃料電池バスや電気バスの導入促進を行っていくほか、労働力不足解消への取り組みを推進してまいります。

また、自動運転バスなどの新技術の導入の検討・投資・協力を積極的に行い、これらの社会的課題への対応に取り組んでまいります。

8. お客様のお問い合わせ先

京浜急行バス株式会社 経営企画部企画調査課

T E L : 045-264-6883 (9 : 30～18 : 15 (平日のみ))